

いのちの窓

まど

人間は言葉の家に住んでいます。
そうだ、永遠の言葉に住まわせ
たら、永遠の真生命をあたえら
れる。阿弥陀如来は念仏往生の
救いを誓われました。
仏法は、死後の救いではありません。
この身このままゆるされ
て、み仏の名号の家に住む人生
におさめとられたのです。

発行：櫻風舎 都城市山田町山田3887
889-4601 0986-64-2078

編著：正定寺住職 尼子 玄章

<https://amidanet.sakura.ne.jp/>

1

南な
無も
阿あ
弥み
陀だ
仏ぶつ

南無阿弥陀仏のおさとりは、
あなたの声にあらわれて完成
します。阿弥陀仏の誓願は、
朝も昼も夜もあなたの声になっ
て、永遠の大生命を生きよう
とのお約束です。

2

大肯定、これ仏法なり。

真実とは、自己の全人生に、
「グッド！　よかった！」と
いえる大肯定の道。この窓が
ひらかなかった人生は、空過・
空しく終わってしまうのです。

今日一日限り
きょう いちにち かぎ

今日一日限りと思えば、
山も空も美しい。ともに
生きた人の姿も懐かしい。
ご飯茶碗にもありがとう。
お箸さんにもありがとう。

地獄とは自分のことでした。

自分の考えること、することなすこと全部地獄だと決着したら、話ははやい。

あとは阿弥陀さまにおまかするばかり。なもあみだぶつ。

5

ただ仏ぶつ法ぽうは

聴ちよう聞もんにきわまることなり。

『蓮如上人御一代記聞書』

われは大安心の仏である。あなたをかならず仏にする。もう決まっておる。むこうもいのちじゃ。むこうも光りじゃ。阿弥陀さまの声が聞こえたら、りきみ心がとれて楽になります。

6

しゅうきょうてき ようきゅう

宗教的要求は、

せいめい ようきゅう

生命の要求である。

西田 幾多郎

宗教は個人の要求ではありません。
生命そのものの要求です。カボ
チャが南へ伸びていくように、
生命は永遠の光を求めずにはお
れないのです。

7

親おやの呼よび声こゑ

なもあみだぶつ

さびしくてねむれない。
うれしくてねむれない。
そんなわたしを、いつでもどこ
でも親さまが見ている、聞いて
いる。真夜中は、お念仏が一番
です。

縫^ぬうという字はいいなあ。

糸は糸巻きに待ちぼうけ。針は針山に待ちぼうけ。針が糸に逢いにきて、「縫う」という字になりました。阿弥陀さまがわたしに逢いにきて、お念仏の人生になりました。

9

念ねん仏ぶつは、

どんぐりが独こ楽まに変かわる道みち

どんぐりは一人では立てませんが、
楊枝をさすと独楽に変身します。
わたしは死への人生ですが、なも
あみだぶつが中心軸になったら、
永遠の大生命に転換します。
機法一体の南無阿弥陀仏。

10

我^わが^な名^なをと^なえよ。

我^わが^いいのち^ちを^あた^ええよう。

世界中に神も仏もおられますが、
名をとねえる者に自分自身をあた
えようという仏さまは阿彌陀さま
だけです。いつくださいますか。
今じゃ。はい、なもあみだぶつ。

高原こうげんの陸地ろくぢには蓮華れんげを生しょうぜず。

卑湿ひしつ淤泥おでいにいまし蓮華れんげを生しょうず。

『維摩経』

お仏壇の阿弥陀さまは蓮台にお立ちです。われら凡夫の悲しみ、悩み、寂しさの心の泥の中から「なもあみだぶつ」とお念仏の華になってくださいました。

12

よのひと はくぞく
しかるに世人、薄俗にして

とも ふきゆう こと あらそ
共に不急の事を諍う。

『仏説無量寿経』

卷下

人生、明日をも知れぬ我が身であるのに、衣食住・仕事・お金にこき使われて、ああ忙しい。急がねばならんことはただ一つ。仏法にあわねば、底なしの真っ暗闇におちていく。

わたしは凡^{ぼん}夫^ぶでありました。

凡夫というのは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむところおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえずと、水火二河のたとえにあらわれたり。

田^た あれば 田^た に憂^{うれ}い、
 宅^{いえ} あれば 宅^{いえ} に憂^{うれ}う。

『仏説無量寿経』

卷下

あっても愚痴、なくても愚痴。
 晴れても愚痴。雨でも愚痴。
 死ぬまで変われんわが心。
 あなたの心はわしがもらおう。
 仏の心をあなたにやろう。念仏
 もうせ。南無阿彌陀仏が仏心じゃ。

極ごく楽らくの入場門にゆうじょうもんを知しってるか。

大峯
顯

極楽の門は死んでから入るんじゃないぞ。極楽の門を知ってるか。外をさがすなよ。入場門はあなたの口じゃ。なもあみだぶつ、なもあみだぶつ。ほら入った。

16

あたま
すこ
頭は少しもわたしを
らく
楽にしてくれません。

ご婦人が笑顔でいわれました。
「なんまんだぶととなえる間、
なあーんも考えんでいいですもんね。お念仏が一番楽ですねえ」と。
お念仏はりきみ心を離れて
楽になれとのみ仏の声です。

17

如来によらいの仕事しごとを盗ぬすむが故ゆえに

苦悶くもん離れざるなり。

清澤 満之

この世に生まれることも、わたしの仕事ではありませんでした。死んでいくことも、わたしの仕事ではありません。永遠の親が引き受けてくださっています。

18

永遠えいえんのあなたなまえの名前を

南無阿彌陀仏なもあみだぶつと申もうします。

「なもあみだぶつ」は、あなたの名前です。肉体も心も経験も知識も財産も、すべてはこの世かぎり。生死を超えていける永遠のあなたの名前を南無阿彌陀仏と申します。

19

仏ほとけさまが息いきをしている、
永遠えい えん いきの息を。なもあみだぶつ。

この息は、仏さまの息。
このいのちは、仏さまのいのち。
わがものと思うたら大変じゃ。
心配がとまらんぞ。

解決かいけつされてある法ほうを聴きく。

太陽は東からのぼり、西に沈む。
川は山から流れて、海にかえる。
一度もくるったことがない。
わたしは迷いだらけの人生を生き
て阿弥陀さまの国に帰る。安心の
解決はもう終わっている。

21

ある
ある
ある

中村
久子

人間の眼は不思議な眼だ。あるものが見えない。ないものが見える。
「お金がない、ひまがない」とないものを苦しむよりも、あるものを見つけてみよう。ここに尊いわたしがある。あなたがある。

無^ぶ事^じこれ貴^き人^{にん}

『臨濟録』

「無事」とは、外に向かつて、
名誉や富や知識や悟りを求める
心がなくなったこと。

わたしの今日のこのままでよい
と安心できた人 これ貴人なり。

独^{ひと}りの時^じ間^{かん}です。
 人^{じん}生^{せい}で一^{いち}番^{ばん}長^{なが}い時^じ間^{かん}は、

独りの時間がおだやかですか。
 むなしくさびしい時間をすごしていませんか。

阿弥陀さまは、わたしを決して
 独りぼっちにしない仏さまです。
 なもあみだぶつと声になって、
 いつもいっしょです。

帰かえる家いえがあるから旅たびは楽たのしい。

山あり谷あり、雨あり嵐あり。
 人生も旅です。仏法を信じれた
 あなたは、必ず帰れる家がある
 という大いなる見通しをいただ
 いたのです。仏法は自己の解決。
 また向こうであいましょう。

念ねん仏ぶつは最高善さいこうぜんなり。

大峯
顯

南無阿弥陀仏は、この世のどんな利益よりも功德があります。お前は決して死ぬことはないという永遠の親の約束の言葉だからです。

26

極速円満す、
ごくそくえんまん

真如一實の功德宝海なり。
しんによいちじつくどくほうかい

『教行信証』

親鸞聖人

南無阿彌陀仏の名前をもらったら、
阿彌陀さまをいただいたのです。
きわめて速く円満に完成している
さどりの功德の宝海をいただいた
のです。生まれてきてよかった。

世界は一人で出来ている。

松永
ツネ

わたしもあなたも、世界にたったひとり。だれにもかわれず、やり直しもない、たったひとり。木の葉も小石も、同じ物は一つもない。一つ一つ、独り独り、みなゆるされて光るこの世界。

もんぼう
聞法とは、

ほとけ　ちえ
仏の智慧をもらうこと。

くらべることが愚かなことと知れたら楽になる。数えることを一休みするとおだやかになる。急がなくてもよい。思うようにはならないが、なるようにはなるさ。なもあみだぶつ。

すくわれ方は、
かた

ひと
 一つあればいいのです。

「この三年間、父も死に母も死に嵐の連続でしたが、その時々お念仏に救われました」とあるご婦人。「いろんな救われ方があるんですね」という隣のご婦人に、「救われ方は一つあればいいのです」とポツリ。お見事。

ただ念仏ねんぶつのみぞ

まことにておわします。

『歎異抄』

煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします。

しょうみょうねんぶつ
 称名念仏の言葉の家に住む

おうじょうじょうど
 ことを往生浄土といひます。

「言葉は存在の家である」。
 いつも憎しみの言葉が心にうず
 巻いている人は、憎しみの家に
 住んでいる。いつもみ仏の名称
 が心に鳴りひびいている人は、
 み仏のお慈悲の家に住んでいる。